

### ①東京港臨海道路の整備事業概要



東京港湾事務所では、平成14年度より中央防波堤外側埋立地と江東区若洲とを結ぶ東京港臨海道路II期事業(約4.6km)を進めています。本事業区間の開通により、大田区城南島から中央防波堤外側埋立地を経由して、江東区若洲に至る約8kmが一本の道路で結ばれます。



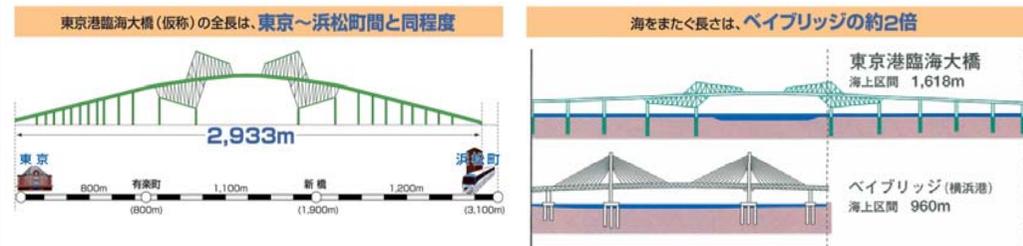
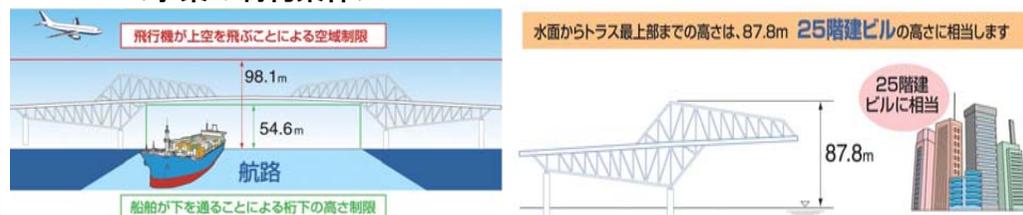
II期事業区間道路諸元

区間	中央防波堤外側埋立地～若洲
道路延長	約4.6km
計画交通量	35,400台/日(H13年9月推計)
車線数	往復6車線(橋梁部:往復4車線)
設計速度	60km/h(橋梁部:50km/h)
道路区分	第4種1級(道路構造令)

### ③東京港臨海大橋(仮称)のスケール

臨海大橋は、羽田空港に近接しているため空域の高さ制限があります。また、桁下は東京港第三航路の船舶航行を確保する必要があり、高い主塔を有する吊橋や斜張橋ではなく、『トラス橋』を採用しています。臨海大橋の主橋梁部で使用する鉄骨の重量は約2万トンであり、東京タワーの約5倍になります。

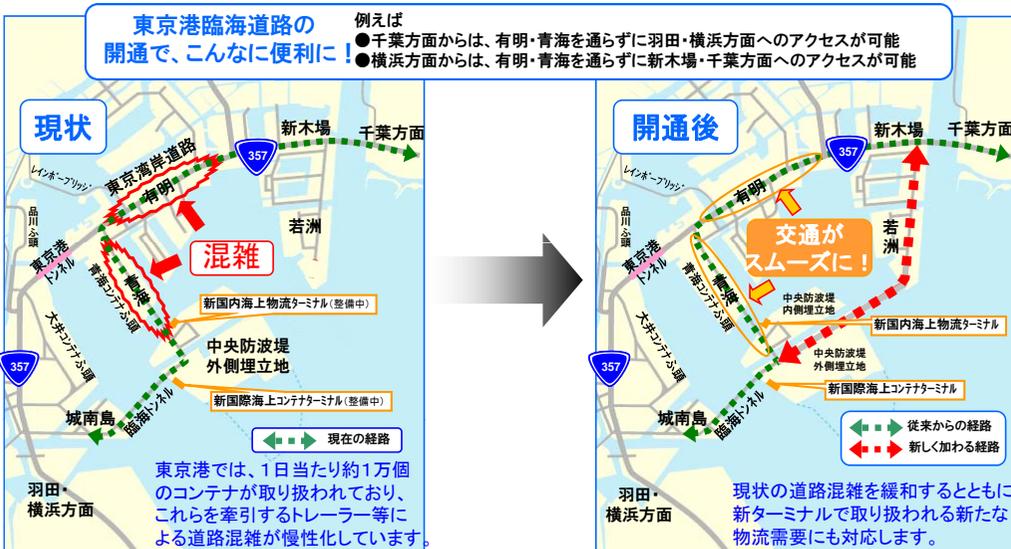
#### <事業の制約条件>



### ②東京港臨海道路の整備効果

東京港の物流がスムーズに！ ～東京臨海部の激しい道路混雑を緩和～

東京港臨海道路の全線開通により、ふ頭間の通過時間の大幅な短縮が図られることとなり、中央防波堤外側埋立地と新木場間の移動時間が従来に比べ約4割短縮されます。これにより、臨海部の物流が円滑となり、東京湾岸道路等の混雑も緩和され、東京臨海部の大きな発展が期待されます。この経済効果は、年間300億円にもなると試算しています。



### ④今回の海上架設について(平成22年1～3月実施)

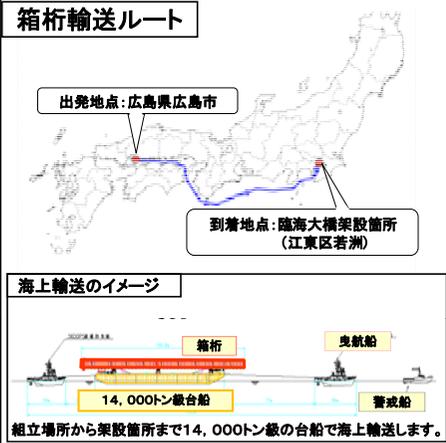
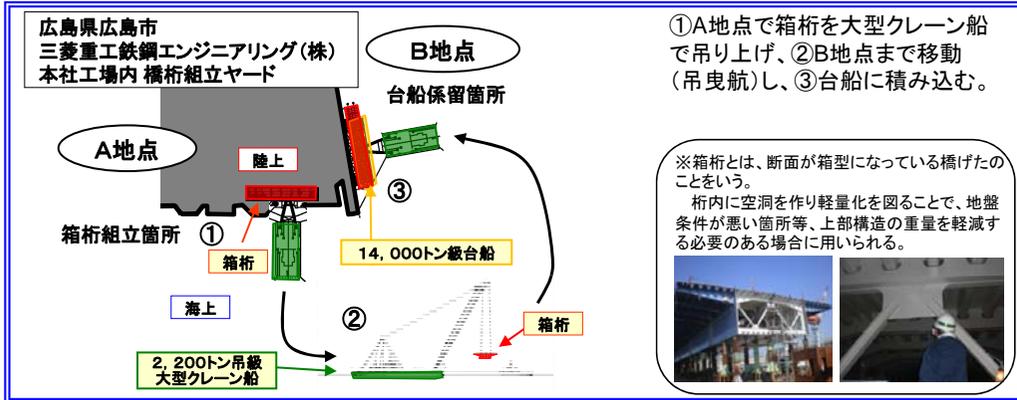
広島県広島市で組立てている箱桁(橋げた)を1月から3月にかけて1基ずつ浜出しを行い、江東区若洲の架設現場まで海上輸送後、大型クレーン船で海上アプローチ部の橋脚に架設します。(※陸上から海上に吊り出す作業)



### ⑤浜出しの手順(3月13日(土))

今回の浜出しは、広島県広島市で組み立てた重さ1,564トンの※箱桁(橋げた)を、2,200トン吊級の大型クレーン船(船名:駿河)で吊り上げ、14,000トン級の台船(船名:深洋、長さ110m×幅33m×深さ6.8m)に積み込む作業です。

浜出し後、積み込まれた箱桁は、江東区若洲の架設箇所まで海上輸送します。  
 (※作業イメージ・実施時間はあくまで予定です。当日の作業状況や気象条件によって変更となる可能性があります。)



### ⑥海上架設の手順(3月26日(金))

⑤で浜出しを行い、江東区若洲の架設箇所まで海上輸送した箱桁(橋げた)を、再び1隻の大型クレーン船(船名:富士)で吊り上げ、橋脚に架設します。  
 (※作業イメージ・実施時間はあくまで予定です。当日の作業状況や気象条件によって変更となる可能性があります。)

